

復興をつないだ食の絆

～復興グルメ F-1 大会 13 年の軌跡～

2013 年 1 月～ 2026 年 3 月

AMDA

特定非営利活動法人アムダ

復興グルメ F-1 大会

集まろう！伝えよう！つながろう東北！







目次

1. ごあいさつ	AMDAグループ代表 菅波 茂 復興グルメ F-1 大会運営事務局代表 坂本 正人	P.01
2. 復興グルメ F-1 大会について		P.03
3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～		P.05
4. 復興グルメ F-1 大会に寄せて～大会関係者のみなさまからのメッセージ～		P.14
5. ボランティアバス		P.19
・ボランティアバスとは ・ボランティアバス運行実績 ・ボランティアバス参加者からのメッセージ		
6. 復興グルメ F-1 大会 アルバム		P.25
7. あとがき	特定非営利活動法人アムダ理事長 佐藤 拓史	P.28



関係者のみなさまへの感謝を胸に

AMDAグループ代表 菅波 茂

復興グルメ F-1 大会！まずは多くの得難い関係者の方々に心から感謝申し上げます。

皆様方の顔が懐かしく走馬灯のように浮かびます。

私も東北の被災地を訪れると共に皆様方にも岡山に来ていただきました。この人間関係は通常では得ることのできない至宝と深く感じています。

復興グルメ F-1 大会を実施した最大の目的は近々発生する可能性の高い南海トラフ地震津波の被災者になる私たちを支援していただきたいという想いからです。

「なぜ私がこのようなつらい状況になるのだ？」という不条理の世界は経験した人でないと理解できません。

南海トラフ地震津波が発生した時に避難所の人たちはこの不条理を嘆くことになるかと危惧しています。

この時に不条理を経験して克服されている皆様方が AMDA のコーディネーターとして避難所に入っただけ被災者の方々に接していただく時に、被災者の方々が先行き見えぬ不安に対して落ち着きと安心感を持たれることは間違いないと確信しています。

一方で、15 年間に 18 回開催された復興グルメ F-1 大会が東北の被災地の復興に少しでもお役に立っていればこれに勝る喜びはございません。

この復興グルメ F-1 大会実施によって創られた貴重な人間関係が今後も続くことを願っています。

この復興グルメ F-1 大会実行委員会のお世話役として最初から最後までご尽力いただいた気仙沼の坂本正人様には心からお礼を申し上げます。

末筆ながら全ての関係者の方々のご健康とますますのご活躍を祈念いたします。

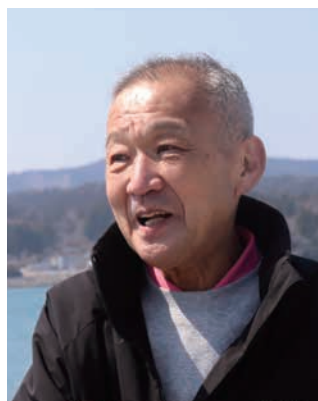


2014 年 3 月 2 日 岡山で開催された第 1 回被災地間相互交流公開フォーラムで商店街のみなさんと

復興グルメ F-1 大会、全 18 回を振り返って

気仙沼市南町紫神社前商店街事務局・AMDA 参与
復興グルメ F-1 大会運営事務局代表

坂本 正人



東日本大震災から 15 年が経ち、「復興グルメ F-1 大会」も、コロナ禍による中断を挟みながら 18 回を数え、このたびファイナルを迎えることとなりました。

この大会の始まりについて、少しお話しさせていただきます。

東日本大震災により、私たちの商店街も壊滅的な被害を受けました。避難所生活が続くなか、「もう一度、商店街をつくろう」と仲間たちと立ち上がり、2011 年、被災地最大級で 53 店舗の復興商店街「紫市場」が誕生しました。

当時は、自分たちのことで精一杯で、他の被災地のことまで考える余裕はありませんでした。そんな中、AMDA の菅波代表とお会いする機会があり、「今は大変でしょうが、被災地同士の情報共有はとても大切です」とお話しいただきました。

その言葉をきっかけに、岩手県大槌町の「きらり商店街」と交流を深め、姉妹提携を結ぶこととなりました。そして、そのつながりから「復興グルメ F-1 大会」が始まりました。

これまでの大会を振り返ると、たくさんの思い出があります。

2013 年、第 1 回大会は私たち気仙沼で開催されました。まだ瓦礫が残る中での開催で、参加出店数も決して多くはありませんでしたが、大勢のお客様にお越しいただき、大きな励みとなりました。

同じく 2013 年、第 2 回大会は 4 月に大船渡の夢商店街で開催されました。雨が降り、とても寒い大会でしたが、多くの皆様に足を運んでいただきました。

2014 年、第 5 回大会は初めての福島大会でした。原発事故による風評被害という大きな逆風の中での開催でしたが、大会史上最多となる 8,000 人以上のお客様にご来場いただき、全店舗が完売するという、本当に嬉しい大会となりました。

2015 年、第 9 回大会は、私たちと姉妹提携を結んでいる大槌町で開催され、懐かしい顔ぶれにも再会し、地域の皆様にも喜んでいただきました。

2017 年の第 15 回大会は、全域に避難指示が出されていた福島県浪江町で開催されました。一部避難解除となった町に、F-1 大会を通して賑わいを取り戻してほしいとの声をいただき、開催が実現しました。当日は多くのお客様にご来場いただき、町の皆様にも大変喜んでいただきました。

2019 年、第 16 回大会は南三陸町で開催されました。今は亡き安倍総理大臣が「ぜひ F-1 大会を見学したい」と足を運んでくださり、参加店舗一軒一軒を回って、温かい言葉を掛けてくださいました。どの大会も、本当にかげがえのない思い出ばかりです。

また、いつも岡山からボランティアバスで駆けつけてくださった皆様には、大きな力をいただきました。長年にわたるご支援に、心より感謝申し上げます。

「復興グルメ F-1 大会」は今回で幕を閉じますが、実行委員のメンバーは AMDA 東北クラブ「チーム F-1」として解散することなく、これからも自然災害や有事の際には、自分たちにできる支援や協力を続けていきたいと考えております。

最後に、AMDA の皆様には、これまで多くのご支援とご協力をいただき、本当にありがとうございました。皆様とのご縁に深く感謝申し上げます。これからも、何らかの形で協力し合える関係を続けていければと思っています。

本当にありがとうございました。

復興グルメ F-1 大会 設立の経緯と趣旨

東日本大震災の発生、 緊急支援活動で芽生えた地域との繋がり

2011 年 3 月 11 日、未曾有の大震災が東日本を襲いました。AMDA は発災直後から緊急支援活動をスタート。医療支援・生活支援を中心とした緊急支援活動を、岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県釜石市、宮城県本吉郡南三陸町、宮城県仙台市の 4 市町を中心に行い、活動スタートから 2 ヶ月間で合計 149 人の医療者と調整員が被災地での救援活動に従事しました。そして、地域の医療機関が再開することを一つの目安として緊急支援活動期を終えました。この同時期に、AMDA グループの公設国際貢献大学校が福島県南相馬市への生活支援を行っていました。



避難所で緊急医療支援活動を行う AMDA 医療チーム（2011 年 3 月）

復興支援の開始、 広がる支援地域と深まる地域との絆 被災地同士をつなぐ取り組み

AMDA では、2011 年 4 月末の緊急支援活動の終了から切れ目なく、2011 年 5 月からは同市町での復興支援活動を開始。医療、教育、生活の 3 つを支援活動の柱とし、被災地の状況に即した様々なプログラムを 3 か年計画としてスタートしました。

その支援活動の一つとして、被災他の方々自らが担い手となり、復興に向けて取り組むための被災地間交流イベント「つながろう大槌・気仙沼」を 2012 年 3 月に実施しました。これが、復興グルメ F-1 大会の前身となる最初のイベントです。

このイベント実施の背景には、徐々に被災地外からの支援も少しずつ少なくなっていく中、

各被災地では様々な問題が顕在化していたことがありました。

そこで「各被災地間を繋ぐことによって、情報や知恵を共有し新たな復興への取り組みを形成すること」「同じ経験をした被災者同士が交流することで、被災者自らが主体となり復興への意欲を促すこと」この 2 つを目的に掲げ、第 1 回目の交流を気仙沼復興商店街南町紫市場で開催しました。これにより大槌町の一行を受け入れた気仙沼の商店街の方々から「ぜひ今度は私たちが大槌へ行って、大槌の人との交流をしたい」との声が挙がり、2012 年 4 月に 2 回目となる交流イベントが開催されました。さらに、同年 7 月には阪神淡路大震災の被災他である阪神淡路と大槌町、気仙沼市の交流イベントを実施。災害からの復興を果たした経験のある阪神淡路の被災地との交流は、まさに復興の渦中にある 2 市町にとって、前向きに復興へ向かわせる追い風となりました。



第 1 回被災地間交流事業
つながろう大槌・気仙沼（2012 年 3 月）

つながりを広げて みんなで被災地を盛り上げよう！

これまでの 3 回の被災地間交流を経て、「さらに多くの地域を巻き込んで、明るく力強い復興のシンボルとなる交流を実現したい」という思いから「復興グルメ F-1 大会」の開催を決定しました。

これは、被災地の各商店街が 1 チームとなって、復興のシンボルとなる「復興グルメ」を考案。その考案したグルメを持ち寄って、大会会場にて販売。お客様の投票をもって、その大会の優勝グルメを決めるというものです。

2. 復興グルメ F-1 大会について

そして 2013 年 1 月。とうとうこの「復興グルメ F-1 大会」が宮城県気仙沼市の気仙沼復興商店街 南町紫市場で産声を上げました。この時は震災から 2 年弱が経過していた頃。まだまだ多くの地域で商店街は仮設の状態。そのような中でも岩手県、宮城県の 2 県 6 チームが賛同してくださり、さらに応援参加も加わり開催を盛り上げました。

ここから、回を追うごとに参加チームが増え、第 3 回からは福島県のチームも加わり、第 18 回まで、のべ岩手県、宮城県、福島県等の 243 チーム（うち応援参加 3 チーム）がこの復興グルメ F-1 大会を盛り上げました。

運営体制の変化 ローカルイニシアティブの体制へ

大会の開催に際して、第 1 回から第 5 回大会までは、AMDA と開催地商店街が協働で運営に関する事務局機能を担っていました。そして、震災から 3 年の節目となった 2014 年 3 月、各商店街や団体の中心メンバーが岡山に集まる機会を設けました。そこで改めて、本大会の意義「被災地間相互交流としての復興グルメ F-1 大会」を確認し、今後の運営について話し合いをする

ことができました。その結果、被災地の方々を中心とした「AMDA 復興グルメ F-1 大会運営事務局」が発足。被災地のイニシアティブのもと大会が開催されるような体制を整えました。

事務局発足の 1 か月後に開催された第 6 回大会から第 18 回大会まで、各回の開催地商店街と復興グルメ F-1 大会運営事務局が協働で、各被災地間で協力をしながら大会の開催を続けることができました。

商店街を中心とした交流から 自治体の協力へも波及

大会規模が大きくなっていく中、イベント開催において地元自治体の協力を得ることで、より多くの方々にご来場いただけるようになりました。その中で出店するチームの方々だけでなく、来場くださる地域の方々にも、自分たち以外の被災地のことに関心が向き、災害復興の英知の共有の場にもなりました。

そしてコロナ禍を経て、大会スタートから約 13 年。被災地の商店街の復興を見届け、2026 年 3 月の第 18 回大会をもって、最後を迎えました。

復興グルメ F-1 大会大会開催地マップ



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第 1 回大会

2013 年 1 月 20 日 (日)

気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市)



出店チーム数：6 チーム
(+応援参加 3 チーム)

延べ来場者数：1,500 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：6 チーム

出店チーム名 (所在地 ▼ 出店グルメ名)

- 大槌北小福幸きりり商店街 (岩手県大槌町 ▼ 大槌めかぶシフォンケーキ)
- ③ おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市 ▼ 大船渡さんまばっとう)
- 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ なっちく)
- ① 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ▼ 気仙沼サンマティーヤ)
- ② 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ▼ 南三陸さんさんタコカレー)
- ★ おがつ店こ屋商店街 (宮城県石巻市雄勝町 ▼ 雄勝丼 (ホタテワカメご飯))

応援参加：3 チーム

出店チーム名 (所在地 ▼ 出店グルメ名)

- 鵜 (うへの) はまなす商店街 (岩手県釜石市 ※ 物品販売)
- 津山ホルモうどん研究会 (岡山県津山市 ▼ 津山ホルモうどん)
- AMDA 野土路農場 (岡山県新庄村 ▼ 新庄村 AMDA のとろダッグ汁)



第 2 回大会

2013 年 4 月 21 日 (日)

おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市)



出店チーム数：11 チーム

延べ来場者数：1,500 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：11 チーム

出店チーム名 (所在地 ▼ 出店グルメ名)

- チーム大槌 (岩手県大槌町 ▼ 大槌鮭さつまコロッケ)
- 地の森ヒルズ (岩手県大船渡市 ▼ エメラルド麻婆丼)
- 地の森八軒街 (岩手県大船渡市 ▼ 三陸ハッケン焼き)
- ① おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市 ▼ 大船渡さんまばっとう)
- 復興大船渡プレハブ横丁 (岩手県大船渡市 ▼ 横丁パスタ)
- 再生の里ヤルキタウン (岩手県陸前高田市 ▼ ヤルキ磯雑煮)
- ② 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ 高田大隅の「がんバーク」)
- 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ▼ 気仙沼サンマティーヤ)
- ③ 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ▼ 南三陸さんさんタコカレー)
- ★ おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ▼ 雄勝湾カレー)
- おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川浜 ▼ おしかモビードック)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第 3 回大会

2013 年 7 月 21 日 (日)
おしかのれん街 (宮城県石巻市)



出店チーム数：12 チーム
延べ来場者数：3,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ 敢闘賞

出店チーム：12 チーム

出店チーム名 (所在地 ▼ 出店グルメ名)

- おらが大槌復興食堂 with チーム大槌 (岩手県大槌町 ▼ 大槌あずきぱっとうアイス)
★ おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市 ▼ 海鮮ばきばきソバ)
復興大船渡プレハブ横丁 (岩手県大船渡市 ▼ おおふなと海来バーガー)
高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ 高田大隅の「がんバーグ」)
陸前高田未来商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ 追憶のジュレ)
③ 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ▼ ふかひれジュレ)
南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ▼ 南三陸さんさんタコカレー)
石巻まちなか復興マルシェ (宮城県石巻市 ▼ 石巻三陸揚げ)
浜友 & J E E N (宮城県石巻市 & 女川町 ▼ 宝イカ飯)
スマイルカー・フィーチャリング・折浜マザーズ (宮城県石巻市折浜 ▼ 折浜バーガー)
① おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川 ▼ おしかモビードック)
② TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】(福島県南相馬市 ▼ りゅうぐう蛸焼き)



第 4 回大会

2013 年 10 月 20 日 (日)
南三陸さんさん商店街横特設会場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数：14 チーム
延べ来場者数：2,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ 敢闘賞

出店チーム：14 チーム

出店チーム名 (所在地 ▼ 出店グルメ名)

- 大町ほほえむスクエア (岩手県釜石市 ▼ 釜石焼そば)
釜石甲子地区むすびや (岩手県釜石市 ▼ かぼちゃプリン)
おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市 ▼ 大船渡さんまぱっとう)
復興大船渡プレハブ横丁 (岩手県大船渡市 ▼ おおふなと海来バーガー)
再生の里ヤルキタウン (岩手県陸前高田市 ▼ ヤル貴美しるこ)
高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ 高田大隅の「がんバーグ」)
陸前高田未来商店街 (岩手県陸前高田市 ▼ 熊ホル焼そば)
③ 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ▼ ふかひれ焼きビー)
② 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ▼ 南三陸さんさんタコカレー)
石巻まちなか復興マルシェ (宮城県石巻市 ▼ 三陸石巻海鮮 9 種玉スープ)
おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ▼ 雄勝丼)
★ おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川 ▼ おしかモビー DON)
七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 ▼ 七ヶ浜復興バーガー)
① TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】(福島県南相馬市 ▼ りゅうぐう蛸焼)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第 5 回大会

2014 年 1 月 19 日 (日)

鹿島生涯学習センター (福島県南相馬市)



出店チーム数：15 チーム
延べ来場者数：8,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：15 チーム

出店チーム名 (所在地 ● 出店グルメ名)

- チーム大槌 (岩手県大槌町 ● おおつち磯のイガッコ汁)
- 復興大船渡プレハブ横丁 (岩手県大船渡市 ● おおふなとライス)
- ③ 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ● 三陸シャケさけかすうどん)
- 陸前高田未来商店街 (岩手県陸前高田市 ● ホタテコロケ)
- 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ● ふかひれ焼きビー)
- ★ 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ● 南三陸さんさんタコカレー)
- おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ● 雄勝湾カレー)
- おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川浜 ● おしかモビー DON)
- 石巻まちなか復興マルシェ (宮城県石巻市 ● 石巻たら福汁)
- 七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 ● 七宝汁)
- リボン相馬 (福島県相馬市 ● あんこうの唐揚げ)
- ② No Donco No Soma (福島県相馬市 ● どんこつみれ汁)
- 南相馬鹿島区街頭出店者組合 (福島県南相馬市 ● かしまスープ焼きそば)
- 郷土料理を考える会 Team 食インスパイア (福島県南相馬市 ● 侍はらこめし)
- ① TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】(福島県南相馬市 ● リゅうぐう蛸焼)



第 6 回大会

2014 年 4 月 13 日 (日)

七ヶ浜町サッカースタジアム前駐車場 (宮城県七ヶ浜町)



出店チーム数：14 チーム
延べ来場者数：6,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：14 チーム

出店チーム名 (所在地 ● 出店グルメ名)

- おおふなと夢商店街 (岩手県大船渡市 ● さくら海鮮焼きそば)
- 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ● 高田のゆめまん)
- 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ● めかライスバーガー&わかめスープ)
- 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ● 南三陸さんさんタコカレー)
- 南三陸『タブの木 漁協直売所』(宮城県南三陸町志津川 ● たこっ手羽うまいっ手羽南三陸っ手羽)
- おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ● ホタテ御結び)
- おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川浜 ● おしかモビー DON)
- 折浜マザーズ (宮城県石巻市折浜 ● 折浜バーガー)
- ① 七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 ● 海鮮あんかけ七宝汁)
- ③ 多賀城からあげストリート (宮城県多賀城市 ● 多賀城からあげオールスターズ)
- リボン相馬 (福島県相馬市 ● あんこうの唐揚げ)
- ★ No Donco No Soma (福島県相馬市 ● どんこつみれ汁)
- 郷土料理を考える会 Team 食インスパイア (福島県南相馬市 ● 侍はらこめし)
- ② TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】(福島県南相馬市 ● ボンジリ焼うどん)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第7回大会

2014年7月13日(日)
高田小学校校庭(岩手県陸前高田市)



出店チーム数: 16 チーム
延べ来場者数: 3,000 人

投票結果表記

- ① 1位 ② 2位 ③ 3位
★ 敢闘賞

出店チーム: 16 チーム

出店チーム名(所在地 出店グルメ名)

- おしかのれん街(宮城県石巻市鮎川浜 おしかモビー DON)
郷土料理を考える会 Team 食インスパイア(福島県南相馬市 侍はらこめし)
南三陸『タボの木漁協直販所』(宮城県南三陸町志津川 オクトバスクリーミーライスボール in 南三陸ヤキソバ)
② 高田大隅つどいの丘商店街(岩手県陸前高田市 ウニがのってる高田のゆめまん)
③ 石巻まちなか復興マルシェ(宮城県石巻市 石巻ボンゴレ焼きそば)
★ 南三陸さんさん商店街(宮城県南三陸町志津川 さんさんタコバーガー)
① 気仙沼復興商店街 南町紫市場(宮城県気仙沼市 ごろごろイチゴのかき氷)
リボン相馬(福島県相馬市 あんこうの唐揚げ)
おがつ店こ屋街(宮城県石巻市雄勝町 ホヤキムチ焼きそば)
TEAM 南相馬【かしま幸福商店街】(福島県南相馬市 リゅうぐう蛸焼)
七の市商店街(宮城県七ヶ浜町 海鮮七宝あんかけ血うどん)
きらり★大槌(岩手県大槌町 おおつち磯のイガッコ汁)
No koonago No SOMA(福島県相馬市 小女子あんかけ焼きそば)
折浜マザーズ(宮城県石巻市折浜 折浜力キバーガー)
多賀城からあげストリート(宮城県多賀城市 からあげオールスターズ)
おおふなと夢商店街協同組合(岩手県大船渡市 海鮮ゆめヤキソバ)



第8回大会

2014年11月2日(日)
市民のひろば: 相馬市民会館前(福島県相馬市)



出店チーム数: 16 チーム
延べ来場者数: 6,500 人

投票結果表記

- ① 1位 ② 2位 ③ 3位
★ 敢闘賞

出店チーム: 16 チーム

出店チーム名(所在地 出店グルメ名)

- 相馬双葉漁協女性部相馬支部(福島県相馬市 小女子あんかけ焼きそば)
南三陸さんさん商店街(宮城県南三陸町志津川 さんさんタコバーガー)
TEAM 南相馬【かしま幸福商店街】(福島県南相馬市 リゅうぐう蛸焼)
七の市商店街(宮城県七ヶ浜町 七ヶ浜ツブカレーパン)
リボン相馬(福島県相馬市 あんこうの唐あげ)
折浜マザーズ(宮城県石巻市折浜 牡鹿産力キ入りのホワイトシチュー)
福幸きらり商店街(岩手県上閉伊郡大槌町 おから串団子)
松川浦観光振興グループ(福島県相馬市 おらいのカニ汁)
★ 気仙沼復興商店街 南町紫市場(宮城県気仙沼市 New めかライスバーガー)
高田大隅つどいの丘商店街(岩手県陸前高田市 シャケとイクラのさけかすうどん)
③ タボの木漁協直販所(宮城県南三陸町志津川 南三陸ホタテ丸ごと1枚&タコのつみれ団子汁)
郷土料理を考える会 Team 食インスパイア(福島県南相馬市 侍はらこめし本丸。)
おがつ店こ屋街(宮城県石巻市雄勝町 おがつ焼き御結び)
南相馬市鹿島区街頭出店者組合(福島県南相馬市 鹿島スープ焼きそば)
② おしかのれん街(宮城県石巻市鮎川浜 牡蠣の、おい!おいスターだ〜!)
① No Donco No Soma(福島県相馬市 どんこ肝つみれ汁)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第9回大会

2015 年 4 月 12 日 (日)
福幸きらり商店街 (岩手県大槌町)



出店チーム数：13 チーム
延べ来場者数：3,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：13 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 南三陸串ものがたり)
- リボン相馬 (福島県相馬市 鶏・塩麴漬けの唐あげ)
- ② 大槌復興交流ツーリズム運営協議会 (岩手県上閉伊郡大槌町 三陸ブイヤベース)
- 南三陸タボの木漁協直売所 (宮城県南三陸町志津川 オクトパススクリーミライスボール)
- マリンマザーズきりきり (岩手県上閉伊郡大槌町 海鮮スープカレー)
- 七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 セケ浜 春の味覚のかきあげうどん)
- 福幸きらり商店街 (岩手県上閉伊郡大槌町 大槌産ピーマン味噌ドーナツ)
- おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ホタテつくね)
- 高田大隅つどの丘商店街 (岩手県陸前高田市 とろとろわかめのなっちくうどん)
- ③ TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】 (福島県南相馬市 りゅうぐう蛸焼)
- ① 鶏! はまなす商店街 (岩手県釜石市 釜石バーガー/はまゆりとタンパッキーのバーガー)
- ★ 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 気仙沼かきあげ丼)
- No Donco No Soma (福島県相馬市 DLT サンド)



第10回大会

2015 年 7 月 19 日 (日)
南町紫市場 (宮城県気仙沼市)



出店チーム数：10 チーム
延べ来場者数：2,500 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：10 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- リボン相馬 (福島県相馬市 鶏・塩麴漬け唐あげ)
- 高田大隅つどの丘商店街 (岩手県陸前高田市 三陸産わかめのなっちくうどん)
- 鶏! はまなす商店街 (岩手県釜石市 釜石バーガー はまゆりと大豆ハムのバーガー)
- ② TEAM 南相馬【かしま福幸商店街】 (福島県南相馬市 福島特産 桃クレープ)
- ③ 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 さんさんたこカツカレー)
- ① 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ブラックめかカレー)
- ★ 南三陸タボの木漁協直販所 (宮城県南三陸町志津川 フライドオクトパス酒蒸しホタテ炙りチーズでトロ〜リンチョ!)
- 福幸きらり商店街 (岩手県大槌町 ダンゴ/カマダンゴ・草ダンゴ)
- 七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 セケ浜七宝麺)
- おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川浜 おしか! 鯨ステーキ!! スタミナ素敵!?)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第11回大会

2015 年 11 月 15 日 (日)

ベイサイドアリーナ特設会場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数：11 チーム
延べ来場者数：3,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：11 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 高田大隅つどの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ② ゆめの海鮮パエリア)
- 南三陸タボの木漁協直販所 (宮城県南三陸町志津川 ② 南三陸山の幸&海の幸てんこもりオクトパールスープ)
- ② TEAM 南相馬 かしま福幸商店街 (福島県南相馬市 ② ボールになったチヂミちゃん)
- 福幸きりり商店街 (岩手県上閉伊郡大槌町 ② 草餅 かまだんご)
- ★ 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 ② KHS 焼飯)
- ③ 神割観光プラザ (宮城県南三陸町志津川 ② タコ味噌坦々麺)
- 七の市商店街 (宮城県七ヶ浜町 ② 七ヶ浜丼)
- ① 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町志津川 ② さんさんたこカツバーガー)
- おしかのれん街 (宮城県石巻市鮎川浜 ② おしか鯨カレー)
- おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ② おがつ焼き御結び)
- リボン相馬 (福島県相馬市 ② 烏賊 (いか) つつみおさかな餃子)



第12回大会

2016 年 4 月 16 日 (土)

鹿島生涯学習センター前駐車場 (福島県南相馬市)



出店チーム数：18 チーム
延べ来場者数：3,000 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位

★ 敢闘賞

出店チーム：18 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 宮城県漁協協同組合 南三陸南三陸タボの木漁協直販所 (宮城県南三陸町 ② 南三陸海鮮玉手箱グラタン風)
- 南相馬市鹿島区街頭出店者組合 (福島県南相馬市 ② かしまスープ焼きそば)
- 福幸きりり商店街 (岩手県大槌町 ② 草餅 かまだんご)
- おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市雄勝町 ② 雄勝湾カレー春バージョン)
- リボン相馬 (福島県相馬市 ② あんこうの唐揚げ)
- TEAM 南相馬 (福島県南相馬市 ② ボールになったチヂミちゃん)
- かしま福幸商店街 (福島県南相馬市 ② 福幸ミルクアンダギー)
- ① No Donco No Soma (福島県相馬市 ② どんこワントンのカニあんかけスープ)
- ★ 大槌ラーメン研究会 (岩手県大槌町 ② 鮭節大槌ラーメン)
- 鹿島商工会サービス業部会 (福島県南相馬市 ② ホルモン 3 種どんぶり)
- 高田大隅つどの丘商店街 (岩手県陸前高田市 ② 岩手のじゃじゃめん牡蠣みそバージョン)
- ③ 鹿島商工会女性部 (福島県南相馬市 ② さくらすいとん)
- 南三陸さんさん商店街 (宮城県南三陸町 ② さんさんたこカツバーガー)
- ② 小高商業高校 (福島県南相馬市 ② ももち春巻き)
- 鹿島商工会青年部 (福島県南相馬市 ② かしまスイーツむらさけ)
- チームもとまつり (福島県南相馬市 ② もとまちボール (スイーツ))
- 南相馬イイベスターズ (福島県南相馬市 ② 南相馬ウマうまバーガー (ぶち))
- 郷土料理を考える会 team 食インスパイア (福島県南相馬市 ② 侍はらこめし)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第13回大会

2016 年 10 月 9 日 (日)

サン・ファン・パウティスタパーク (宮城県石巻市)



出店チーム数：15 チーム
延べ来場者数：1,500 人

投票結果表記

- ① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ 敢闘賞

出店チーム：15 チーム

出店チーム名 (所在地 📍 出店グルメ名)

- 南三陸さんさん商店街 (宮城県本吉郡南三陸町 📍 さんさんタコカツバーガー)
高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 📍 ゆめの海鮮パエリア)
神割観光プラザ (宮城県本吉郡南三陸町 📍 タコ味噌坦々麺)
リボン相馬 (福島県相馬市 📍 あんこうの唐あげ)
おしか RINCAFE (宮城県石巻市 📍 牡鹿 MO(藻) バーガー)
★ No Donco No Soma (福島県相馬市 📍 海鮮🍷茶-1 蒸し)
福幸きりり商店街 (岩手県大槌町 📍 黒糖ふかし)
おがつ店こ屋街 (宮城県石巻市 📍 雄勝湾カレー)
② 気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 📍 めかブラックドライカレー)
おしかのれん街 (宮城県石巻市 📍 穴子唐揚げ丼)
③ 宮城県水産高等学校 (宮城県石巻市 📍 伊達なホヤむすび)
牡鹿食材普及会 (宮城県石巻市 📍 牡鹿銀鮭鯨点心)
① 福島県立小高商業高等学校 (福島県南相馬市 📍 野馬追田楽)
宮城県漁業協同組合 南三陸タボの木漁協直売所 (宮城県本吉郡南三陸町 📍 南三陸海の宝石汁)
JA いしのまき青年部矢本地区 (宮城県東松島市 📍 焼肉丼)



第14回大会

2017 年 3 月 26 日 (日)

志津川仮設魚市場特設会場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数：14 チーム
延べ来場者数：900 人

投票結果表記

- ① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ 敢闘賞 ★ AMDA 賞

出店チーム：14 チーム

出店チーム名 (所在地 📍 出店グルメ名)

- 福幸きりり商店街 (岩手県上閉伊郡大槌町 📍 草ダンゴ、白あづきダンゴ)
高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 📍 シャケのさけかすうどん)
② 気仙沼 ホルモン同好会 (宮城県気仙沼市 📍 気仙沼ホルモン鍋)
七輪屋 (宮城県気仙沼市 📍 邪悪鶏)
気仙沼復興商店街 南町紫市場 (宮城県気仙沼市 📍 ブラックめか焼きそば)
③ 南三陸さんさん商店街 (宮城県本吉郡南三陸町 📍 さんさんタコカツバーガー)
★ レストラン神割 (宮城県本吉郡南三陸町 📍 タコ味噌坦々麺)
「南三陸復興市」キャッツエンタープライズ (宮城県本吉郡南三陸町 📍 南三陸柚子釜ゼリー)
南三陸ふっこう青年会 (宮城県本吉郡南三陸町 📍 never ネバぶっかけめかぶうどん)
★ 南三陸志津川 松野や (宮城県本吉郡南三陸町 📍 海鮮はっと汁)
シーサー (宮城県石巻市 📍 海苔ヤーチ)
ななちゃん' S (宮城県宮城郡七ヶ浜町 📍 マグロまん)
リボン相馬 (福島県相馬市 📍 あなご唐あげ)
① TEAM 南相馬 (福島県南相馬市 📍 りゅうぐう蛸焼)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第15回大会

2017 年 10 月 7 日 (土)
浪江町役場 敷地内 (福島県浪江町)



出店チーム数：12 チーム
延べ来場者数：900 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ 敢闘賞 ★ AMDA 賞

出店チーム：12 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- ② TEAM 南相馬 (福島県南相馬市 殿!! 唐揚げでござる!!)
- ① 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 陸前高田のさんまメンチ)
- ③ No Donco No Soma (福島県相馬市 海鮮茶わん蒸し SP)
リボーン相馬 (福島県相馬市 あんこうの唐あげ)
気仙沼復興商店街 (宮城県気仙沼市 気仙沼めかカレー)
あん果樹応援隊 (福島県福島市 桃と水俣天の紅茶のスノーパウダー)
かしま福幸商店街 (福島県南相馬市 浜街道「までいすいとん」)
- ★ 大野台仮設 励まし屋連合 (福島県浪江町 励まし屋特製そうめん)
みんなのキッチン (福島県南相馬市 ツナサラダパリパリスティック)
- ★ おしかのれん街 (宮城県石巻市 石巻の宝箱!!)
キャッツエンタープライズ (宮城県南三陸町 タコの唐揚げニューデリー風)
報徳庵 with しめちこちゃん (福島県相馬市 とり天)



第16回大会

2019 年 11 月 24 日 (日)
志津川仮設魚市場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数：13 チーム
延べ来場者数：1,200 人

投票結果表記

① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ AMDA 賞

出店チーム：13 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 高田大隅つどいの丘商店街 (岩手県陸前高田市 さんまメンチ)
- ② 気仙沼復興商店街 (宮城県気仙沼市 ふかひれどうすい!!)
- ★ 松野や (宮城県南三陸町 海鮮はっと汁)
カネトミ (宮城県南三陸町 南三陸牡蠣汁)
レストラン神割 (宮城県南三陸町 ターコ麺)
高橋栄策商店 (宮城県南三陸町 豚丼)
杏樹の森 (宮城県南三陸町 海鮮スープ焼きそば (ホタテ入り))
- ③ マルセン食品 (宮城県南三陸町 タコバーガー)
フレッシュミート佐利 (宮城県南三陸町 豚一匹ホルモン)
おやつショップ さらの家 (宮城県石巻市 石巻焼きそば)
リボーン相馬 (福島県相馬市 あんこうの唐揚げ)
報徳庵 (福島県相馬市 タラタルドッグ)
- ① チーム南相馬 (福島県南相馬市 殿! からあげでござる!! 辛味渡来 Ver)



3. 復興グルメ F-1 大会の軌跡～全 18 回の開催を振り返る～

第17回大会

2023 年 11 月 19 日 (日)
志津川仮設魚市場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数: 15 チーム
延べ来場者数: 1,300 人

投票結果表記

- ① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ AMDA 賞

出店チーム: 15 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 陸前高田 たまご村 (岩手県陸前高田市 ゆず香るカキと秋野菜のグラタン)
① 南町紫神社前商店街 (揚げたてコロッケ屋!) (宮城県気仙沼市 三陸大粒カキフライ特製タルタル付き)
② 南町紫神社前商店街 (豚野郎) (宮城県気仙沼市 新牡蠣麺)
★ 南三陸さんさん商店街 (マルセン食品) (宮城県南三陸町 タコバーガー タコ唐セット)
カネトミ (宮城県南三陸町 タコおでん)
松野や (宮城県南三陸町 漁師丼セット)
南三陸牡蠣倶楽部 (宮城県南三陸町 南三陸殻付蒸し牡蠣 3 種の味わい)
ちゃぶ家 うさぎ (宮城県石巻市 いしのまきワカメのロングポテト)
おやつショップさらの家 (宮城県石巻市 石巻焼きそば)
吉田屋 (宮城県石巻市 炙り豚バラ丼)
Bamboo Shoot (バンブーショット) (宮城県石巻市 石巻ポーク & ビーフキーマカレー)
旬魚旬味 いしもり (宮城県石巻市 鯨ステーキ!! 素敵でホエール!)
有限会社 海鮮フーズ (福島県相馬市 あんこうの唐あげ)
③ たこ焼 円達 (福島県南相馬市 円達のたこ焼)
焼いも専門店の店 REIWA (栃木県市貝町 焼いも専門店 REIWA のつぼ焼き芋)



第18回大会

2026 年 3 月 29 日 (日)
志津川仮設魚市場 (宮城県南三陸町)



出店チーム数: 15 チーム
延べ来場者数: 1,300 人

投票結果表記

- ① 1 位 ② 2 位 ③ 3 位
★ AMDA 賞

出店チーム: 15 チーム

出店チーム名 (所在地 出店グルメ名)

- 大船渡食堂 (岩手県大船渡市 いかマヨファイヤー、大船渡わかめらーめん)
ナポレオンのからあげ (岩手県気仙郡住田町 住田からあげ)
たまご村 (岩手県陸前高田市 三陸秋刀魚のさんまメンチ)
③ 南三陸高校・商業部 (宮城県南三陸町 モアイ焼き)
南三陸牡蠣倶楽部 (宮城県南三陸町 南三陸牡蠣 3 種の味わい)
★ 吉田屋 (宮城県石巻市 南三陸志津川産本伊勢海老出汁の中華そば)
マルセン食品 (宮城県南三陸町 南三陸タコバーガー)
南三陸松野や (宮城県南三陸町 海鮮はっと汁)
神割崎キャンプ場 (宮城県南三陸町 タコ味噌担々麺)
ちゃぶ家 うさぎ (宮城県石巻市 三陸サバ味噌サンド、イカとエビときのこのバター醤油のホイル焼き)
おやつショップさらの家 (宮城県石巻市 石巻産イカ入り塩焼そば)
旬魚旬味 いしもり (宮城県石巻市 昔なつかしくじら焼!)
海鮮フーズ (福島県相馬市 メヒカリの唐あげ)
① チーム南相馬 (福島県南相馬市 殿様みそラーメン)
② 焼いも専門の店 (栃木県市貝町 ねっとり濃蜜!! REIWA のやきいも)



大会関係者のみなさまからのメッセージ

前南三陸町長 佐藤 仁（宮城県南三陸町）

未曾有の大災害となった東日本大震災から 15 年の月日が経ちました。

南三陸町では犠牲・行方不明になられた方が 831 人、住宅・商店・工場の 6 割強が流失するという壊滅的な被害を受けました。

まさに絶望の中から再建に向けての歩みを進めてきましたが、全国・世界の皆様方からのお支えや、温かいご支援のお陰で復興を成し遂げることができました。

復興グルメ F-1 大会がスタートした 2013 年の南三陸は、ガレキが撤去されたばかりの荒涼とした風景が広がっていました。

18 回の大会の中で、私が思い出に残っているのは、当時の安倍総理が激励に駆け付けてくれ、お祝いの言葉を述べてくれたことです。会場の皆さんが万雷の拍手と満面の笑顔だったことが今も心に残っています。

最後にアムダさん、実行委員会の皆さん、関わってくれた全ての皆さんに、心から感謝を申し上げます。本当に有難うございました。



さんさん商店街マルセン食品 三浦 洋昭（宮城県南三陸町）

震災の翌年の第 1 回から、第 18 回大会まで、連続で参加させていただきました。被災地商店街の再建に向けた本当に力強い原動力となってきました。お支え頂いたアムダの皆様、岡山からはるばる駆けつけてくださいましたボランティアの皆様、関わっていただいた多くの皆さんに心より感謝申し上げます。

震災の翌年仮設の工場に女性がおひとり訪ねて参りました。当時アムダに所属なされておりました大政さんでした。まだ瓦礫の残る被災地で、地域を超えてイベントを開催しようとお話でした。それが F-1 大会の始まりです。

ご招待を頂き初めての岡山県。被災した商店街の皆様と初顔合わせ。互いの情報交換を密に福島、岩手、宮城のみんなと再建に向けさらに弾みがつきました。震災で多くを失いましたが、未来に向

け一生共にできる、多くの同士と出会えました。大会は終わりますが、ご縁を大切にこれからも漸進して参ります。



南町紫神社前商店街 坂本 正人（宮城県気仙沼市）

仮設商店街「紫市場」は 2011 年 12 月にスタートし、その後現在の本設商店街へ移転してから 8 年が経ちました。

しかし、本設へ移ってからは店舗数も大きく減少しました。復興事業による区画整理には 10 年以上の歳月がかかり、当初「町へ戻ってくる」と話していた住民の方々も戻ることなく、今では商店街周辺に空き地が目立つようになっています。

気仙沼では、震災後、毎年 1,000 人以上の人口減少が続いています。そうした厳しい状況の中でも、私たちは商店街として賑わいづくりを考えながら、日々集客に取り組んでいます。

復興グルメ F-1 大会については、事務局という立場でもあり全大会に参加してきました。その中でも特に思い出深いのは第 1 回大会を気仙沼で開催した時のことです。すべてが手探りの開催でまだ瓦礫が残る中、「本当に人が来てくれるのだろうか」と不安でいっぱいでした。しかし、当日は想像を超える多くの方々にお越しいただき大きな安堵と感動を覚えています。

また、2014 年の第 7 回大会 陸前高田大会では、私たちが出店した「ゴロゴロイチゴのかき氷」が予想を上回る反響をいただき、わずかな時間で完

売、そして優勝することができました。現在でも商店街イベントでは、この「ゴロゴロイチゴのかき氷」を提供しており、多くのお客様に親しまれています。

どの大会も、本当に楽しく、かけがえのない思い出ばかりです。

そして何より、岡山から来てくださった AMDA スタッフの皆様、ボランティアバスで駆けつけてくださった皆様、そしてバスの運転手の皆様には、長年にわたり温かく支えていただきました。ただ支援をいただくだけではなく、人と人とのつながりとしてお付き合いしていただけたことに、心から感謝しております。またいつか、何かの機会に皆様と再会できることを楽しみにしております。



たまご村（旧：高田大隅つどいの丘商店街） 太田 明成（岩手県陸前高田市）

第 1 回の気仙沼大会は、スタッフ皆で「寒い、寒い」と言いながら販売していたのを覚えています。第 2 回大船渡大会は 4 月だというのに、これまた寒い日でした。この時作ったのが「スープハンバーグ」です。また、このレシピをアレンジしてできたのが、東京のイベントでは一日 1,300 個売れるほど人気になった「さんまメンチ」です。今では陸前高田市のふるさと納税返礼品にも登録されていて、地元道の駅でも販売されるほどまでに成長しました。

この復興グルメ F-1 大会は、僕らを大きく成長させてくれました。当時は飲食店も復興特需の真っ只中で、超多忙な時期でしたが、参加して良かったと本当に思いました。通常なら交わることのない他県の方々とたくさんのお話ができたと、メ

ニュー開発に頭を悩ませ、ステップアップできたのも出会いがあったからだと思います。皆様本当にありがとうございました。



元AMD A職員 東北担当 大政 朋子（石川県鳳珠郡能登町）

復興グルメ F-1 大会は、「集まろう！伝えよう！つながろう東北！」をコンセプトに、被災地同士がつながり情報を共有し、岩手県・宮城県・福島県の3県が力を合わせて発信していこうという目的で始まりました。当時、何をするかについて迷いはなく、三陸一番の魅力である「食」に着目し、岩手県・宮城県・福島県の各仮設商店街を訪ねました。身元も分からない者が突然訪れても、真剣に話を聞き、賛同して下さった皆さまの復興への熱い思いは、今でも昨日のこのように思い出されます。

回を重ねるごとに参加者は増えましたが、どの回も思い出深く、開催地や運営委員会の皆さんの並々ならぬ努力と、それを応援する他地域の参加者の皆さんが、心を打つ大会を作り上げていきました。そして、この大会を大きく支え続けたのは、笑顔で駆けつけて下さった多くのボランティアの皆さまでした。設営から運営、片付けに至るまで担って下さったボランティアの方々なしには、本大会は成り

立たなかったと思います。

復興グルメ F-1 大会を通してつながった岩手県・宮城県・福島県の皆さん、そしてボランティアの皆さんが、これからも地域を越えて支え合い、その思いが次の世代へと受け継がれていくことを願っております。



おおふなと夢商店街 ひまわり化粧品店 及川 廣章（岩手県大船渡市）

あれから 15 年の年月が流れていきました。

あつという間の 15 年でしたが、でもあの年に生まれた子供がこの春には高校生になりましたので、普通に考えればかなりの年月です。本当にいろいろなことがありました。

被災した商店主が集まって、それぞれの傷をなめ合うように未来の話をし合うようになるうちに誰かが仮設商店街の情報を仕入れてきて、いつの間にかみんな同じ夢を見るようになっていました。

被災したのが3月11日でしたが、その年の内に仮設商店街を立ち上げないとダメのような気がして急ピッチで準備をはじめ、最後の3日間は突貫工事で「仮設夢商店街」をオープンしたのが震災の年の12月4日でした。

3年後には本設の商店街ができるという行政の説明を信じ、とにかく2年間がんばって盛り上げていこうと皆で心に誓いました。

でも考えている以上に復旧工事は難航し、結局6年も仮設で過ごすことになりました。しかし同じ境遇の商店主のつながりは共通の時間

を伴にすることで「戦友」のように深まっていき、文字通り運命共同体となりました。

その中で開催された復興グルメ F-1 大会には自分たちの絆と知恵をフル活動させて全員で真剣に参加しました。

自分の商売を忘れ、商店街のために力を出し切ることで何だか自分で自分の未来を切り開いていくように感じたものです。今ではそれも懐かしい思い出です。

あれから道はそれぞれ分かれてしまいましたが仮設商店街で過ごした時間は、今でも忘れることができない大切な人生の宝物です。

言ってみれば、復興グルメ F-1 大会は私たちの青春そのものだったと思います。



元おがつ店こ屋街 上山 政彦（宮城県雄勝町）

震災後、当時何をしたらよいのかわからないまま、でも「ただただ前にすすまなければ」の思いでいました。仮設商店街で魚屋と定食屋を始め、不安と葛藤しながらの毎日を過ごしていました。そんな時 AMDA の大政さんとの出会いがあったこと、今でも鮮明に覚えています。この大会のことを聞いた時も「F-1？なんの事？」くらいで話を聞いていました。ただ、あの頃は何かをやらなければと言う気持ちが強く、参加を決めました。「雄勝町の8割が被災して大変な事、もっともっと多くの人に知ってもらいたい」そんな気持ちもありました。そして無我夢中で地域の友達とメニューを考え、迎えた第2回大会。震災後、初めて夢中になれた気がしました。その時の感動は今でも忘れられません。また、大会への参加を通じて、AMDAの方をはじめ岡山からのボランティアの皆さんとの交流が何より楽しい思い出です。今も飲食店を営業しながら大会に出品したメニューを時々出せるのも大会があったおかげです。

この大会を通じて一番感じたことは、「F-1大会のための料理を考える」ということよりも、「大会に出て多くの人達との出会い」が前に進むきっかけになったことです。震災前では考えられない他



県の人達との交流が何より力になりました。岡山にも何度も行くことができたのも心に残っています。またぜひ岡山を訪れたいです。今回終了になってしまい残念な気持ちでしたが、「始まりがあれば終わりもある」仕方ない事です。最後に携わった多くの人達ともう一度会いたかった。これから違う形であっても、何か機会があれば、協力したいです。

AMDAの皆さん、岡山から参加してくれたボランティアの皆さん、そして復興グルメ F-1 大会を企画運営・参加してくれたすべての皆さん、ありがとうございました。

チーム南相馬 高橋 秀典（福島県南相馬市）

第3回大会からの出場。AMDAの青いTシャツのハツラツとした招待者は誠意に溢れ、復興グルメ F-1 大会は希望を運んでくれた。

同じ境遇の方達が沢山いて、それにチャレンジできる場所があって、福島県からの出場の存在意義を確認できた。私自身も最終の大会までの間チャレンジして生み出したグルメや経験がお店の成長、そして伴侶と一緒に歩いて来て成長、思い出、出会いの場所でもあった。本当にありがとう！相馬地方には二宮尊徳の報徳仕法の教えがあり、この大会の根底の「お互い様」が同じ土台なんだと共感致しました。今までは自身の復興からこれからは未来への強い原動力に変えて貢献していきたい。



海鮮フーズ 青田 茂（福島県相馬市）

2011年3月11日 東日本大震災の年、いつかは、遭遇すると思っていた事態でした。様々な被害を目の当たりにしながら、何処から何をしなければ、ならないのか？これを機に、何で貢献できるのか？小さい事では、あるけれど、未来に活かせる事、この機に以前から考えていた。浜値では、二束三文の小さな鰯を、商品化しようと考えたけど、放射能の問題で使えない。そんな中、韓国の友人が使えるものがあつたらと、韓国に招待してくれました。鰯がありました。安く分けていただき、試作を重ね、唐揚げとしました。そんな時、復興グルメ F-1 大会の参加を呼び掛けいただき、参加させていただきました。お陰で、多くの被災地の皆さんを知ることができ、それから F-1 の開催地を、知ることになり、皆さんの頑張りに、励まされた中で、今があると思っています。アムダの皆さん、F-1 のスタッフの皆さん、関係者の皆さんには、いろいろと、学ばさせていただきました。F-1 のお陰で、新たな人の繋がり、商品開発、そして、



これからも起こるであろう自然災害時の、人としての在り方など、感謝の中で、これからも、学んでいこうと思っています。

旬魚旬味いしもり 石森 政成（宮城県石巻市）

2011年（平成23年）3月11日（金）14時46分に発生した国内観測史上最大マグニチュード9.0の巨大地震東日本大震災、大津波で家屋や車などが流されていく黒い塊。今でも鮮明に覚えています。私が住んでいる宮城県石巻地方では、死者3,277人、行方不明者417人、市の13.2%にあたる73平方キロメートルが浸水し、壊滅的な被害を受けました。それから数か月がたち、仮設商店街「おしかのれん街」が完成致しました。

2013年当時、AMDAの大政さんからお声がかり、復興グルメ F-1 大会のお話をいただき、即参加の手を上げました。私たちは大船渡で開催された第2回大会から参加させていただき、第3回大会の開催地に手を上げました。第3回の牡鹿大会では、色々な苦労がありましたが、皆さんの協力の中、牡鹿半島の先端まで、沢山のお客様が足を運んで、皆笑顔でグルメを楽しんでおられました。また、石巻市のサンファンパークでの開催さ



れた第13回大会でも数千人のお客様の笑顔が見られました。皆さん復興のため、前に進んでいる様子が感じられました。

これも、AMDAの皆様のお陰だと感謝しております。本当に素晴らしい復興グルメ F-1 大会。他の商店街との良い繋がりをありがとうございました。お疲れ様でした。

ボランティアバスとは

支援者の方の声が形に

「何か被災地のために力になりたい」という多くの支援者のお声は、発災直後から AMDA 事務局に届いていました。しかし、発災から 1 年目、被災地へのアクセスは、簡単ではなく、被災地でのボランティア活動のニーズも日々変わっている状況。多くの方に気軽に足を運んでいただける環境ではありませんでした。そして急性期を経て、震災から 1 年以上が経過。災害からの復興のフェーズになってもその声は届き続けていました。そこで、この復興グルメ F-1 大会の開催に合わせて、岡山から長距離バスで大会開催地を訪れて、ボランティアを行う「ボランティアバス」の運行をスタートしました。

仕事や学校を休まなくても被災地に駆け付けられる行程

この「ボランティアバス」は、金曜日の夕方に岡山を出発し、土曜日の正午ごろ被災地に到着、被災地の復興状況の視察や大会の開催準備の手伝いなどをしたのち、現地の宿泊施設に宿泊。日曜日は朝から大会運営のボランティアを行い、大会終了を見届けて現地を出発。月曜日の朝に岡山に到着するというハードなスケジュールでした。

ハードスケジュールにもかかわらず強い思いを持った参加者の方々

第 1 回の運行となった 2013 年 10 月の第 4 回復興グルメ F-1 大会時には、43 名の方のご参

加があり、満席の運行で、高校生から 60 代の方まで、同じように被災地に思いを寄せる方たちを乗せて、岡山から東北の被災地を往復しました。そしてそこから大会に合わせて、形を変えながらボランティアバスを運行すること全 14 回。のべ482人の方に、参加していただきました。

ボランティアバスを通じて被災地の方に伝えたい思い

現地では、大会のテント設営などの準備から当日の店舗でのお手伝いや行列の整理など、さまざまなボランティア活動で、大会を盛り上げました。また被災地の復興状況を視察したり、直接災害時のお話を伺うような機会も設けました。当初の目的であった、より多くの方に「ボランティア活動に参加していただきたい」「被災地の現状を知っていただきたい」「被災地の方たちへの岡山からの支援メッセージを届けたい」という AMDA 事務局の想像を超えて、より深く強いつながりが、ボランティア参加者と被災地の方々に芽生えたことは、非常にうれしい誤算でした。



イベントの設営から当日のお手伝いのボランティア活動



復興状況を視察や、被災者の方から直接お話をお聞きする時間も

「また来るね!」「おかえり!」 1000km 以上の距離を感じさせない 関係性の芽生え

このボランティアバスを利用することで、初めて被災地に足を運ぶ方も多くいらっしゃいました。実際に足を運ぶことで、メディアやネットでは感じられない被災地の現状を見聞きし、心を痛める場面もありました。しかし、それ以上に、被災地の方々の復興に向ける力強さや、温かい気持ちに触れて「感動した」「自分たちのほうが元気をもらった」と帰路で話してくださる参加者がほとんどでした。そしてその経験から、その後の大会でもリピーターとなって参加してくださる方や、家族や友人、知人に声をかけ、参加してくださる方も増え、1000km 以上の距

離を超えて、被災地の方々との「支援者」「被災者」という関係ではない、ともに地域を盛り上げる仲間というような関係性が生まれていく様子が見られました。

真のパートナーシップへ

AMDA はこれまでの世界中の災害支援の経験から、強いパートナーシップは「悲しみの共有ではなくて喜びの共有から生まれる」と考えています。だからこそ、このボランティアバスの運行で得られた強い信頼関係や絆は、今後の被災地の復興を後押しするものと信じています。



商店街の方々と一緒になって、大会を盛り上げるボランティアバス参加者のみなさん

ボランティアバス運行実績（全14回：2013年～2023年）

1 第4回大会向けボランティアバス



2013年10月18日（金）～21日（月）

目的地 南三陸町（宮城県）

参加人数 43人（34人＋スタッフ9人）

2 第5回大会向けボランティアバス



2014年1月17日（金）～20日（月）

目的地 南相馬市（福島県）

参加人数 36人（31人＋スタッフ5人）

3 第6回大会向けボランティアバス



2014年4月11日（金）～14日（月）

目的地 七ヶ浜（宮城県）

参加人数 39人（32人＋スタッフ7人）

4 第7回大会向けボランティアバス



2014年7月11日（金）～14日（月）

目的地 陸前高田市（岩手県）

参加人数 41人（36人＋スタッフ5人）

5 第8回大会向けボランティアバス



2014年10月31日（金）～11月3日（月）

目的地 相馬市（福島県）

参加人数 38人（35人＋スタッフ3人）

6 第9回大会向けボランティアバス



2015年4月10日（金）～13日（月）

目的地 大槌町（岩手県）

参加人数 37人（33人＋スタッフ4人）

7 第10回大会向けボランティアバス



2015年7月17日（金）～7月20日（月）

目的地 気仙沼市（宮城県）

参加人数 44人（39人＋スタッフ5人）

8 第11回大会向けボランティアバス



2015年11月13日（金）～16日（月）

目的地 南三陸町（宮城県）

参加人数 35人（31人＋スタッフ4人）

9 第12回大会向けボランティアバス



2016年4月15日（金）～18日（月）

目的地 南相馬市（福島県）

参加人数 34人（28人＋スタッフ6人）

10 第13回大会向けボランティアバス



2016年10月7日（金）～10日（月）

目的地 石巻市（宮城県）

参加人数 27人（20人＋スタッフ7人）

11 第14回大会向けボランティアバス



2017年3月24日（金）～27日（月）

目的地 南三陸（宮城県）

参加人数 40人（35人＋スタッフ5人）

12 第15回大会向けボランティアバス



2017年10月6日（金）～9日（月）

目的地 浪江町（福島県）

参加人数 24人（17人＋スタッフ7人）

13 第16回大会向けボランティアバス



2019年11月22日（金）～11月25日（月）

目的地 南三陸町（宮城県）

参加人数 21人（16人＋スタッフ5人）

14 第17回大会向けボランティアバス



2023年11月17（金）～20日（月）

目的地 南三陸町（宮城県）

参加人数 23人（20人＋スタッフ3人）

ボランティアバス参加者からのメッセージ

初めて参加したのは第2回大船渡大会(2013年4月)でした。当時大槌町に駐在していた大政さんが被災地交流をはじめ、被災地商店街間のグルメ大会に結実しました。第2回が大船渡に決まった時、ぜひ行きたいと思い夜行バスで仙台まで行き、車を借りて三陸海岸を北上しました。途中、大会会場がわからず大政さんに電話、なんとかたどり着きました。大したお手伝いもできなかったのですが、その夜は宮古市の国民宿舎に泊りました。部屋でテレビをつけると、今日の大船渡大会の様子がニュースで流れていました。それも全国ネットです。びっくりしました。とても注目されていたことがわかりました。復興グルメ大会の成功を確信しました。その年の第4回南三陸町大会からボラバスが運行されるようになったと思います。



古邨 祐蔵

きっかけは2012年8月の宮城、岩手でのボランティア活動に参加し、海岸の風景が愛媛の自分の地元を思い起こさせ、不思議にも懐かしく感じたことでした。その後2018年に岡山を離れるまで、ボラバスには大変お世話になりました。



金子 真

F-1は第5回から福島でも開催されるようになり、3県の復興に微力ながら関わらせていただいたこと、感謝しています。何度も参加したのは、AMDA職員の方々、ボラバスの常連さん、商店街の皆さんに再会したかったからだと思います。酷寒の中、車の誘導をしたこと、大会のグルメに加えてSAの喜多方ラーメンが楽しみだったことなど、思い出は尽きません。気仙沼で買った鮫皮の財布は今も重宝しています。

私が初めてF-1大会に参加したのは、震災から3年後の2014年でした。震災当時はまだ高校生で、何かしたいという思いはありながらも、知識も力もない自分には何もできないと感じていました。大学生になり、新聞でF-1大会のボランティア募集を知り、これなら自分にもできるのではないかと思います。参加しました。



千原 紘菜

現地では、立ち入り禁止区域や更地となった街を目の当たりにし、言葉を失いました。特に山を登った場所で、案内してくださった方が「ここまで津波が来ました」と示してくださった山肌を見たとき、自分の想像力の至らなさを痛感しました。

一方で、「遠くから来てくれてありがとう」と温かく迎えてくださる方々の笑顔にも出会い、多くの励ましをいただきました。このような機会を与えてくださったAMDAの皆様、そして15年の歩みを支えてこられたF-1大会に関わるすべての方々に、心より感謝申し上げます。

2014年1月福島県南相馬市鹿島区開催の第5回復興グルメF-1大会に初参加した。会場いっぱいの来場者は、仮設住宅入居等で離れて暮らすご近所さんと長い待ち行列でも話が弾む。東北三県各地の出店者が腕を奮うグルメを楽しむながらも話が弾む。公園や校庭に仮設住宅が建っているため遊ぶ場所が減っている子ども達も大はしゃぎだ。



藤井 逸子

多くの人達に東の間でも楽しんで貰える時間を共有できることがうれしかった。出店者の皆さんがご自身も被災者でありながら被災者の皆さんのために料理に腕を奮う心意気に共感し皆さんと一緒に活動することも楽しかった。

最後の18回大会まで連続参加。東北の方々とのご縁はこれからも続けたい。

「微力は無力ではない。」

5. ボランティアバス

「食」を介して被災地と人、そして情報を繋ぐこの大会は、困難な状況下で多くの笑顔と喜びを分かち合う貴重な場でした。会場で来場者の皆様の晴れやかな表情に触れるたび、震災からの15年間、このイベントが果たしてきた役割の大きさを改めて実感いたしました。

悲しみの中でも前を向く力をくれた食の力、そしてこの尊い場を作り上げてこられた発起人の大政様をはじめ、全ての関係者の皆様に深く敬意と感謝を表します。最後の大会を迎えられたことは寂しくもありますが、ここで育まれた温かなご縁を、これからも大切に繋いでいきたいと思っております。



五藤 拓也

東北の皆様、そして AMDA の皆様、永いあいだ、お世話になりました。

まだまだ気候がどういふ変化につながるか見えませんが、これからも地球自体の未来につながることを希望しております。

これからもよろしくお願い致します。



加藤 健一

岩手県、宮城県、福島県。かつては遠く感じていた東北が、この大会に何度も参加するうちにとても身近に感じられるようになりました。

時にはわが家の子ども達と参加したこともありました。親の私には教えることのできない、貴重な学びを得る姿を目の当たりにしました。

東北との「心の距離」を近づけてくれた F-1 大会、かけがえのない思い出をくれた F-1 大会でした。出会えた皆さまに心から感謝申し上げます。

この大会が幕を下ろしても、東北の皆さまと紡ぐご縁に終わりはありません。これからもずっと、応援と友情の物語は続くと思っております。



林 美絵

私は、震災の 50 日後に、赤十字のボランティアとして、気仙沼に入り、ボランティア活動を始め、それから東北へ移住するまで、いろんな団体の活動に参加しました。

その中で、AMDA さんの「F-1 大会」を知り、第 6 回大会から参加を始めました。9 回大会参加。

第 10 回、宮城県気仙沼市『南町紫市場』の大会で、震災の 6 年目から、仮設商店街が終わり、それぞれの道を選んで進むことになることになると聞き、被災地がどうなっていくか気になった。個人的な理由も重なり、翌年の 2016 春に宮城県に移住した。第 12 回、14 回、15 回、16 回、17 回、今回最後の 18 回と参加した。岡山から来る人達、出店する顔なじみの店主の皆さん、バスの運転手さんとの思い出を大切にしよう。お疲れ様でした。



万波 学

東日本大震災発生から今年 3 月 11 日で丸 15 年になりました。今でも紫色の両備バスが道路を走っているのを見ると、あのときの光景が蘇ってきます。

被災地の力に何とかかなりたいと思うと同時に、当時私は高校教員をしており、自分が現地に出向き空気感、体感、情景を直接感じ目の前の生徒に伝えたいという防災教育の一環としても参加させていただきました。何回か行っているうちに勤務校の生徒さんや高校校長会の先生方も参加され輪が広がったことが嬉しかったです。現在は大学教授として当時の話や災害の恐ろしさを大学生に伝えています。

現在も東北各地の皆さんと、年賀状の交換も続いています。



吉田 信

6. 復興グルメF-1大会アルバム

第1回 2013/1

時々雪が舞う中の開催となりました。被災地グルメ以外にも岡山などから大会を盛り上げるための応援参加もあり、ご当地ゆるキャラとともに大会を盛り上げました。



第3回 2013/7

石巻市の中心部から1時間もかかる鮎川浜の会場に、全国から大勢の方が集まりました。開催前からチケット売り場に行列、多くの店舗では早々に完売となる大盛況となりました。



第4回 2013/10

岡山からのボランティアバスの運行が始まり、事前準備の手伝いや当日の準備スタッフとして大会を盛り上げました。足元の悪い中多くの方が会場を訪れました。



第5回 2014/1

初めての福島県での開催。大会史上最多の来場者数となりました。会場を訪れ受付開始30分前から、列ができ、最後まで行列が途絶えることのない大盛況となりました。



第2回 2013/4

雨の降る中開催された大会でしたが、参加商店街が増え、東北エリアの様々なメディアで取り上げられるなど、広がりを感じられる大会となりました。



2014/3

岡山で開催された「被災地間相互交流公開フォーラム」には大会参加経験のある10の仮設商店街の代表者らが一堂に会し、今後の大会運営について話し合い、大会運営事務局の設立となりました。



第6回 2014/4

会場入り口には1時間前から行列ができ、オープンと同時に、会場内は多くの来場者で埋め尽くされ、お昼には完売のブースもでる大盛況のとなりました。



6. 復興グルメF-1大会アルバム

第7回

2014/7

グルメのほかにイベントとして出店地域の被災当時のパネル展示のほか、大人気の妖怪ウォッチのキャラクターが登場し大歓声の中、子供たちと一緒にダンスを踊るなどグルメ以外の見所も満載の大会となりました。



第8回

2014/11

開催前から多くの方が来場し、各ブースの前には長い行列が並びました。ほとんどのブースでは完売となり、多くの方の笑顔であふれる会となりました。また、地元相馬のYOSAKOIなどのイベントや各地域のゆるキャラが会場を盛り上げました。



第9回

2014

運営事務局では、大会の開催に向けた会議を定期的に重ね、より良い大会の開催になるよう意見を出し合いました。



2014/7 運営事務局の会議の様子



2014/12 運営事務局の会議の様子

第9回

2015/4

大会開始以来、最北の開催地。それでも福島県、宮城県、岩手県より13団体が集い、完売ブース多数となりました。伝統芸能の盛んな大槌での開催ということで、迫力あるステージイベントにも多くの方が入っていました。



第10回

2015/7

第1回大会がスタートされてから2年半、「記念すべき10回目は同じ会場で開催を!」という声で、同じ会場で開催されました。晴天に恵まれ、笑顔と絶品グルメで大会を盛り上げました。



第11回

2015/11

ときどき小雨がちらついたものの多くの来場者がありました。各ブースは助け合いながら完売を目指し、会場は温かい一体感に満たされていました。閉会式の際には虹が空にかかり、会場は歓声に包まれました。



第12回

2016/4

初めての土曜日開催となりましたが、多くの来場者で長い行列ができました。本大会直前に熊本地震が発生したことを受け、会場内には募金箱が設置され、東北から熊本への思いを募りました。



6. 復興グルメF-1大会アルバム

第13回
2016/10

大会の開始とともに雨が上がり、たくさんの方で埋め尽くされ、完売ブースも数多く見られた大会となりました。ステージでは地元の子どもたちによるダンスや和太鼓、バンドによる演奏など、たくさんのイベントが催され、大会を盛り上げていました。



第14回
2017/3

仮設の「さんさん商店街」の移転オープンを機に本大会の開催となりました。販売価格の見直し、投票用紙の採用など今後の大会のための工夫を行いました。



第15回
2017/10

全域が帰還困難区域となっていた浪江町が一部で避難指示が解除されたことを受けて地域活性化イベント「なみえ復興祭」と同時にグルメ大会を開催することとなりました。町民が笑顔で再会できる場を提供することができ、多くの住民らでにぎわいました。



第18回
2026/3

震災から15年の節目となった今大会。今回はその締めくくりとなる大会として開催され、多くの来場者と多数の出店者でにぎわいました。



第16回
2019/11

2018年は日本各地で水害被害が発生したため開催を延期し、今回大会は2年ぶりの開催となりました。



第17回
2023/11

コロナ禍を経て4年ぶりの開催となりました。晴天に恵まれ、多くの人々が絶品グルメに行列を作りました。



感謝と絆、そして未来へ

特定非営利活動法人アムダ 理事長 佐藤 拓史



2011 年の東日本大震災発生直後、私たちは被災地での支援活動を開始しました。

その中で強く感じたのは、「人と人とのつながり」や「地域同士の支え合い」が、復興を支える大きな力になるということでした。

その思いから、2013 年に「復興グルメ F-1 大会」が始まりました。

岩手県、宮城県、福島県の多くの被災地の皆様にご参加いただき、それぞれの地域の味と想いを届けていただきました。

また、岡山からのボランティアバスにも多くの皆様に参加してくださり、大会運営や交流を通じて、たくさんのご縁と絆が生まれました。

2013 年から続いてきた復興グルメ F-1 大会は、第 18 回大会をもって一区切りを迎えます。ここまで続けてこられたのは、東北の皆様をはじめ、ご出店・ご協力いただいた関係者の皆様、ボランティアの皆様、そして全国から応援してくださった多くの皆様のおかげです。

主催者を代表し、心より感謝申し上げます。

この大会を通じて生まれたつながりが、これからも地域を越えて続いていくことを願っております。長年にわたり、本当にありがとうございました。





AMD

国連経済社会理事会総合協議資格NGO
特定非営利活動法人アムダ
〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1



www.amda.or.jp

✉ member@amda.or.jp ☎ 086-252-7700

復興をつないだ食の絆～復興グルメ F-1 大会 13年の軌跡～
2026年9月1日発行